

### 3-12. 上小谷地区

#### 1. 地区の概要

##### (1) 位置・人口等

###### ■位置

上小谷地区は、益城町の北東部に位置し、東は杉堂地区、西は下小谷地区、南は堂園地区に接しています。

本地区は、山や小高い丘に囲まれています。また、地区を東西に木山川が横断しています。なお、木山川は、大雨時の越流が心配です。

本地区の南部、県道熊本高森線から木山川付近は平坦ですが、北側に向かうにつれて高くなる傾斜地となっています。



図 上小谷地区

###### ■人口等

平成 29 年 3 月末日の住民基本台帳によると、上小谷地区の人口は 247 人、世帯数は 95 世帯となっています。

平成 25 年から 29 年までの 5 年間の人口・世帯数の推移をみると、世帯数はほぼ変化していないものの、人口は 7 % 減少しています。

表 上小谷地区の人口推移と世帯数（平成 25 年～29 年）

	平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年		平成 29 年	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
上小谷	267	94	261	97	254	95	254	97	247	95
(H25 を 100 とする指数)	100	100	98	103	95	101	95	103	93	101

資料：各年 3 月住民基本台帳人口

## （２）被害状況

熊本地震後 1 回目の住家の被害認定状況をみると、本地区を含む小谷地区では住家の 31%が「全壊」又は「大規模半壊」となっており、約 3 割の家屋に被害が発生していることがわかります。

このため、平成 29 年 10 月時点において、家屋が解体され一部で更地（空地）の状態になっているところもありますが、建物の新築も進んでいます。

表 津森校区内大字別被災状況（住家）

	住家					
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	計
大字寺中	16	6	41	71	1	135
大字田原	31	12	42	63	1	149
大字小谷	28	30	47	92	2	199
上小谷	12	16	18	42	2	90
大字杉堂	47	8	20	22	4	101
大字上陳	40	12	25	38	0	115
大字下陳	11	11	26	95	0	143

## （３）地区の課題

- ・震災前から現在にかけて人口は緩やかに減少傾向にある。
- ・公共交通及び公益的施設が少なく利便性に課題がある。
- ・地区内には幅員 4 m 未満の狭い道路が多い。

## 2. 地区の基本方針

上小谷地区は、東側の崖下の区域を中心に熊本地震による家屋の被害も大きく、人口の減少が続いています。安全で住み続けられるため住宅・住宅地の復興が急務となっております。しかし、土砂災害特別警戒区域等に指定され、住宅が建設困難な状況にあります。

地区の中央には上小谷運動公園があり、震災前は地区の方々がゲートボールを楽しんでおりましたが、震災後は公園までの隘路の擁壁が崩壊したことや、ゲートボール場の地面に凹凸が入る等により、使われなくなっています。

地区の魅力として木山川の豊かな自然や沿川の桜公園が挙げられます。一方その木山川も、震災によって発生したげ崩れ等の影響により、川床に土砂や倒木が堆積し、水位が高くなっており、氾濫の危険性が指摘されます。また、県道熊本高森線と本地区は、老朽化した一本の橋でのみ繋がれており、安全性の確保が求められます。

また、全国的な少子高齢化や空き家問題、農業の従事者・後継者不足などの問題が震災を契機に顕出し、将来にわたって持続可能なまちづくりが求められています。

このため、ハード・ソフトの両面から災害に備えたまちづくりを進め、若い人が住み、子どもたちの笑顔が絶えないまちづくりを進めるとともに、地区住民だけでなく地域の住民が心から安全・安心して住み続けられるまちづくりを目指します。

### 【まちづくりの目標】

**“豊かな自然とともに 人々がつながるまち 上小谷 ”**

### 3. 避難路・避難地の計画

#### <避難地>

避難地については、小谷地区（上小谷・下小谷）の東西に通る町道小谷田原線沿道に面している場所に、災害時の一時避難場所を整備します。

表 避難地の整備の概要

公園名等	整備内容		整備の内訳			概算 事業費
			延長	幅員	面積	
		拡幅等	(m)	(m)	(㎡)	(千円)
一時避難場所	地区公共施設(避難地)	新設			1105.0	30,625



## 上小谷地区



図 避難地計画図